

## トムソーヤーへの道 第9章 木登り訓練所卒木登り術師

木登りこそ秘密基地の原点だ、なぜ木に登るのか、そこに木があるからだ。木に登るのを教えるのが木登り訓練所。もうちょっと先まで、その先まで、、、木の上に登れば、新鮮な驚きとともに、そこには地上とは別の景色、新しい世界が広がる。

ガンコ山の木登り術では、特別な装備は必要としない。ロープと木の棒だけを使って登る術だ。

この秘術をマスターすれば、特別な優越感と満足感に浸れることは間違いない。他の人にも、きっと自慢できるだろう。しかし、そんな雑念は木に登った瞬間、どこかに吹っ飛んでしまう。木に登って下を見ると人間の大きさが手にとるようにわかる。木にしがみつき、風に一緒に揺られているとなんとも言えない感覚につつまれる。

トムソーヤーへの道—ガンコ山マスターというのは、もう少し知恵があれば、頑張れば、今までと違う世界が広がっていくというようなものをテーマにしています。木登りというのは、まさにガンコ山マスターの原点です。もう少し頑張れば、あの二股までいけるのに、そこから先は、たくさん出ている枝に伝わって行けばよいだけなのに、そこに行けば、別の世界があるはずなのに。

行けそうで行けない二股までいけるようにするのが、ガンコ山マスター最終章木登り術師の技です。

木に登る、あるいは木に上るというのは、いくつかの方法があります。二つ別々のロープの輪を、木に巻きつけて一つの輪を足の掛かりとして、もう一つ上部の輪を胴体の支持として、体の重心移動で上るプルージングというロープワークを用いた木登り術もあります。

リクリエーションとしても確立されているのが、ツリークライミングです。特別な装具を用いて、誰もが安全に、高所の、木の上の世界を体験させてくれることを実現した画期的なもので、一度は挑戦したい世界です。

ところで、ガンコ山の木登り術は、まさに秘密基地の木登り術の名にふさわしい術です。日本の伝統的木登り術に「ブリ縄」というのがあります。この技は本来、ヒノキや杉など、枝のない木をロープと棒だけで10 m以上も登って、檜の皮を剥いたり、枝打ち作業をするための高度な術です。この術を使って、行けそうで行けない二股まで辿り着くのが、ガンコ山の木登り術です。

(※ブリ縄—12 m位のロープの両端に、ある長さの棒を縛り付けておく。その棒を自分の頭上に、十字架のように、木にそのロープを使って括りつける。同時に棒までの間に、ロープの輪を作っておき、棒につかまり、ロープの輪に足をかけ、棒まで、体を持ち上げ、その棒に乗かる。二段目は、一段目に乗って、もう一つ端の棒を括りつける。3段目以降は、下の段の棒を括っているロープを左右に振って、はずし、その棒を手繰り寄せてつくる。これを繰り返すと、枝のない木でも、10 m以上登ることができる。もともとは、桧皮葺の屋根をつくる檜の皮を剥ぐ桧皮師の術とされる、日本の伝統的木登り術)

ガンコ山の木登り術師では、小学校高学年くらいの子ども達を対象にしています。このブリ縄の技を使い、木登りの意欲に駆られる木、椎の木やタブの木などの雑木に応用します。2段目くらい、足の高さで3 mくらいを上限としています。そうすれば、たいがい雑木の二股までは足がかかるとのことです。あとは枝を伝い、自分の力量と度量で、行けるところまで行けばいい。ロープと棒という最低限の道具と大いなる知恵を使っただけで、自分の力で登ったことに大いに満足します。猿のように木に登るのに近い術、自分の能力を最も試すことのできる木登り術ともいえます。だからこそ、登った時は、自分の力を感じ、地上とは違う世界の眺めを感じるのです。

ところで、ツリーハウスマスターを含めて他のガンコ山マスターの道は、覚える気さえあれば、誰でも男女子ども問わず身につくはずのものばかりですが、この木登り術師だけは、木登り訓練所入所試験があります。

まず、大人ですが、多くのお父さんは、入所試験を実施する以前の体型面接で不可と言わざるを得ません。それに、なぜかお父さんは、子どもには頑張り！何でできないのだ、と言うくせに、自分ではこういうチャレンジをしないのです。どういうわけか、身の軽さに自信のあるお母さんが、チャレンジして身をもって教える、で、やはり母は強いです。

しかし、お父さんもあきらめてはいけない。ガンコ山マスターというのは、大人も子どもも、一緒に修行するものであり、体験の中で、大人はいつも子どもに、大人の凄さを見せつけることを忘れてはならないのです。それが子どもの目標になるからです。木登りにあう体型は維持できなくても、ロープで棒を括りつける方法だけは、しっかりと身につけて、子どもをサポートしましょう。

入所試験では、ロープにつかまって丸太の柱に巻かれた太いロープを伝わってその柱に登る練習をします。子どもは翌日くらいには、合格することになっています。子どもは、身が軽いし、チャレンジ精神で必ずやります。子どもは今も昔も高いところが好きなのです。ただ、実際の木登りとなると、チャレンジャーは思ったより少ない、というより、できないことが残念です。実際の木登りに必要な姿勢は屈んで大きく足を上げるということです。

条件は体が柔らかいことも、さることながら、絶対条件として、足のかかとの腱が伸びないと、体型はスリムであってもどうにもならないのです。現代の洋式の生活習慣なのか、この腱が、子どものくせにどうにも伸びない子どもが多いのです。膝を前の方に出してしゃがんだ時、きちんと踵をつけた状態で、しゃがめるかどうか、自分子どもに試させてみるとわかります。多くの子どもがしゃがんだ時に踵が浮いてしまうのです。

腱が伸びないと、片方の足を大きく上げて、次の枝に渡る時の体重移動ができないので体が持ち上がらないのです。ブリ縄自体も、体を屈め、頭上まで足を上げて、自らの体重を持ち上げなければなりません。腱が伸びなければ、自ずと体も無理をしないので、硬くなるのではないかと思いますし、ある程度、身体が大きくなる中学生くらいになるとケガも多くなるのではないのでしょうか。

子どものチャレンジ精神は今も昔も変わらないと思いますが、木登り術師だけはどうしても養成が難しくなった時代かも知れません。木に登らない秘密基地はどこかさびしい。

トムソーヤーへの道 ガンコ山マスター 最終章、 求ム 秘密基地木登り訓練所木登り術養成教授  
年齢9歳以上性別問ワズ  
資格 木登り訓練所卒木登り術師